

学校法人米田学園 米田柔整専門学校 学校関係者評価委員会は「平成 26 年度自己点検・自己評価報告書」の結果に基づいて学校関係者評価を実施したので、下記のとおり報告します。

1. 学校関係者評価委員

医療機関有識者関係：米田 實
 業界関係：森川 伸治
 卒業生：杉浦 光幸
 理事長：米田 忠正
 校長：岩間よしゑ
 副校長：船戸 嘉忠
 教務：片桐 幸秀

2. 平成 26 年度自己点検・自己評価における学校関係者評価

| 評価項目 | 評価 | 評価に対する今後の学校の取組 |
|---------|--|--|
| 教育理念・目的 | 貴学は従来から佛手仏心というイメージが強い。今後、業界も巻き込みながら、よりよき方向に進むような新しい時代へのメッセージを期待したい。理事長、校長や教職員に情報発信がなされ学生・外部関係者が理解できている状況といえる。 他校と比べ、整形外科医院や病院への就職に向けたカリキュラムが多いと思われる。このため医療機関での研修後、接骨院を開業すると、医接連携のモデルとして多くの卒業生が地域医療に貢献している。この事は貴学の大きな特色として評価できる。 | 保護者に向けた情報発信についてはその方法や手段について再検討する。また、柔道整復師の認知度という意味からも、より公の視野で進める。 50年を超える伝統に依存することなく、柔道整復師の本質を情報発信していくとともに、提供している教育が目標とする人材育成に沿っているか検証していく。 |
| 学校運営 | 組織運営については、医師もふくめ他医療関係職種、学識経験者など幅広い視点からの評価が継続され業務効率化が進んでいることが理解できた。 平成 26 年度より学校関係者評価委員会を組織し、自己点検・自己評価内容について開示するなど、これまで以上に情報開示を行う姿勢であることを評価する。 人事、給与、就業規則等、適切な守秘義務と透明化をこれからも継続することが重要になる。 | 業務効率化と透明化を図りながら、それによるリスク管理をより慎重に進めていく。 今後も学校関係者評価を継続し、評価結果に沿った対策を講じていく。 校外における実習を中心に、キャリア教育における企業連携を強化する。 |
| 教育活動 | 患者の経過を診て行くといった線の教育内容の充実に取り組んでいることが理解できた。今後、臨床現場におけるキャリア教育を充実されるため、学内における接遇面を中心とした社会的マナー、法律面のコンプライアンス等の教育精度をより高めていただきたい。 授業評価の方法については、常に見直ししながら進めていただき、学生に迎合することで高い評価にならないように継続していただきたい。 就職先の医院、病院、接骨院との連携を密にし、教育内容の過不足を経時的にチェック、評価することで、カリキュラム編集に活かしていただきたい。 | 接遇面と技術面を両立させた実技教育の精度を高める。 教員全体がコアカリキュラムの策定に関るとともに、継続的に検証していくことで、教員の意識改革・質の向上を図る。 教員各自の研鑽研修実績の把握やその計画策定に向けたシステム作りを行う。 卒業生やその就職施設との連携強化を図る。 |
| 学習成果 | 多くの学生がクリニックや病院に就職することは意義深いことであると評価します。 国家試験合格率は高い実績を継続され評価します。 退学率の低減には、早期対応が何より重要と考えます。学生から発せられる黄信号を敏感に察知し、即座に対応をしていただきたい。 卒業後の動向は、学会セミナーや研修会を通じ積極的に把握されていると理解しています。 | 就職については、全卒業生の卒業後 3～5 年の継続した追跡調査を行うシステム作りを行う。 各学生がフロー状態になることを目標に各自に見合った課題に取り組ませ、他者から認められる環境作りに努め、その成果を保護者にも伝える。 |
| 学生支援 | 様々な哲学や価値観で運営されている接骨院を紹介していただき、接骨院業務の奥深さ、やりがいといった部分に | 保護者とは面談はもとより、電話での連絡をより密に行う。特に、学習面で滞っ |

| | | |
|----------|---|--|
| | <p>もスポットを当てていただきたい。 保護者との連絡を積極的に取り、成績不良の学生や、出席状況が不良な学生への対応を行っている状況や、補充講義・生活指導状況について理解できた。 柔道に力を入れていることから、平素から外傷や障害について、啓蒙活動をされていることが理解できた。 国家試験世代の卒業生との関りを強くされていることは、卒業後の重要な戦略と評価するが、半世紀を超える幅の広い世代間が活発に連携できるような環境整備にも一考をお願いしたい。</p> | <p>ている場合には、些細な内容でもコミュニケーションを取り合う。 三者面談・個人面談・電話連絡等における担当教員からの啓発内容や学生から発信された内容について学内で情報共有するシステム作りを行う。 コミュニケーションセミナーを通し、縦に長い卒業生間の交流に努力する。</p> |
| 教育環境 | <p>校舎の増築ならびに原校舎の改修工事に着手し、教育環境は充実していると評価します。道場も季節を問わず柔道が行いやすい環境整備がなされています。 業界と学校の連携を強化する取組みは、学生の業界学会での発表を中心に従来から行われており、高い評価をしています。今後は、学外実習について積極的な提案をしていただきたい。</p> | <p>学外実習（インターンシップ）に向けた学生指導、受け入れ施設の確保・検討を進める。 施設見学を実施し、校内における学生指導の方法を検討する。</p> |
| 学生の受入れ募集 | <p>高校訪問に加え、高校での模擬講義など、柔道整復師の可能性がいかに広いものかを伝えていただければ、おのずと貴学の学生募集につながると考えます。 社会人の募集に対しては、社会人向けの職業体験会の実施なども検討されてはどうか。</p> | <p>本校の情報発信、高校や中学におけるキャリア教育への参加等、これまで以上に行う。 社会人に向けた職業体験の方法を検証する。</p> |
| 財務 | <p>受験者数の確保が重要になります。貴学ならびに柔道整復師の本質を適切に表現いただき、やりがいと魅力のある職業であることを証明していくことが、安定した財務基盤に繋がると考えます。</p> | <p>平成 28 年度からの新しい募集定員を確保するように努める。</p> |
| 法令などの遵守 | <p>学校での取り組みに対して特記する意見はありません。</p> | <p>パワーハラスメント、セクシャルハラスメントなど、周知徹底に努める。</p> |
| 社会貢献 | <p>学長・理事長をはじめ、校長以下教員における東海地区柔道整復師会への貢献は特記に値する。また、学校協会への貢献も甚だしく、柔道整復師養成施設のリーダー的存在であると考えます。 学会での学生報告は、業界と学生との交流の場として大いに期待している。</p> | <p>公開講座の開講を模索する。 教職員の地域活動やボランティア活動の実態を把握するように努める。</p> |

総評

米田柔整専門学校は、柔道整復師単独の養成校として当該地域はもとより全国的にも牽引役としての重責を担われています。

学校教育と接骨院現場が乖離しないよう、教職員の意識改革やスキルアップに向けた取組みが行われています。今後、更なる努力を重ねていただき、常にリーダー的立場で成長を続けていただくことを期待します。特に、関係業界や医療機関との連携下、社会性のある柔道整復師の実践的教育を積極的に推進していただきたい。

第一部と第二部の定員を変更する計画など、学生募集にも意欲的に取組まれている。今後、急激な社会構造変化にも柔軟に対応され、長年に渡る教育実績を生かし、安定した組織運営を継続させることを望みます。